

報告

テレビ会議システム休止について

常任理事・情報広報部長 藤原 秀俊

当会のテレビ会議システムは、平成15年3月の総合情報システム推進委員会報告に基づき、平成16年秋に整備を開始し、平成17年度から本運用を行ってきた。

これまでの運用実績は、研修会・講演会を中心に計28回実施している。主な研修会・講演会の参集人員の年度別実績をみると、最近参集人員の減少が見られる。特に、数人しか参加していない所や、中には参加人員ゼロというところもあった。

これまでの費用を見ると、システム運用管理費が年間550万円～600万円、機器のリース料が750万円～860万円の計1,400万円前後の費用が掛かっている。平成16年度からの総額は5,534万円と、これまで多額の費用を投入して事業を継続してきた。

しかし、現行の技術・機材では、当初目論んでいた全地点を結んだ双方向会議を実施するための十分な能力を有していないことが判明し、さらに、研修会・講演会等の中継も、全拠点を接続した場合、能力不足により、画像や音質が悪くなることが明らかになった。また、運用中にサテライト会場の機器が停止する等、機材に関するトラブルも数回あった。

以上のような技術的な問題に加え、当初の目的であった会議開催費用の軽減が実現していないなど、財政上、費用対効果の面から、事業を継続することが適当なのか、懸案事項となっていた。

そのため、情報広報部において1年にわたり慎重に検討を重ね、さらに平成20年3月、全都市医師会にアンケート調査を行うとともに、平成20年7月には、地区別事務懇談会において意見を聴取した。その結果、「現行システムの運用を平成21年度から当分の間休止するものの、今後の技術革新を待ち、環境が整えば、将来的に事業の再開を目指す」こととした。

なお、テレビ会議の代替として、研修会・講演会等のDVDを作成し、各都市医師会の意向により配布するための費用を計上した平成21年度予算案を作成、去る3月14日・15日開催の第131回北海道医師会定時代議員会において承認された。

お知らせ

道医シリーズ第46篇「認知症」 「はがき解答」による自宅学習評価事業の正解発表

◇学術部◇

冊子道医シリーズ第46篇（生涯教育シリーズXVII）「認知症」（3月号発行）で「はがき解答」による自宅学習評価事業を実施いたしました。

ご参加いただいた会員からは、「勉強になった」「何度も読み返した」などのご感想をいただきました。誠にありがとうございました。

3月31日で参加を締め切りましたので、正解を発表いたします。自己採点の参考にして下さい。

設問と正解番号

問1. ー	問2. 3	問3. 3
問4. 2	問5. 1	問6. 3
問7. 1	問8. 2	問9. 2
問10. 3	問11. 3	